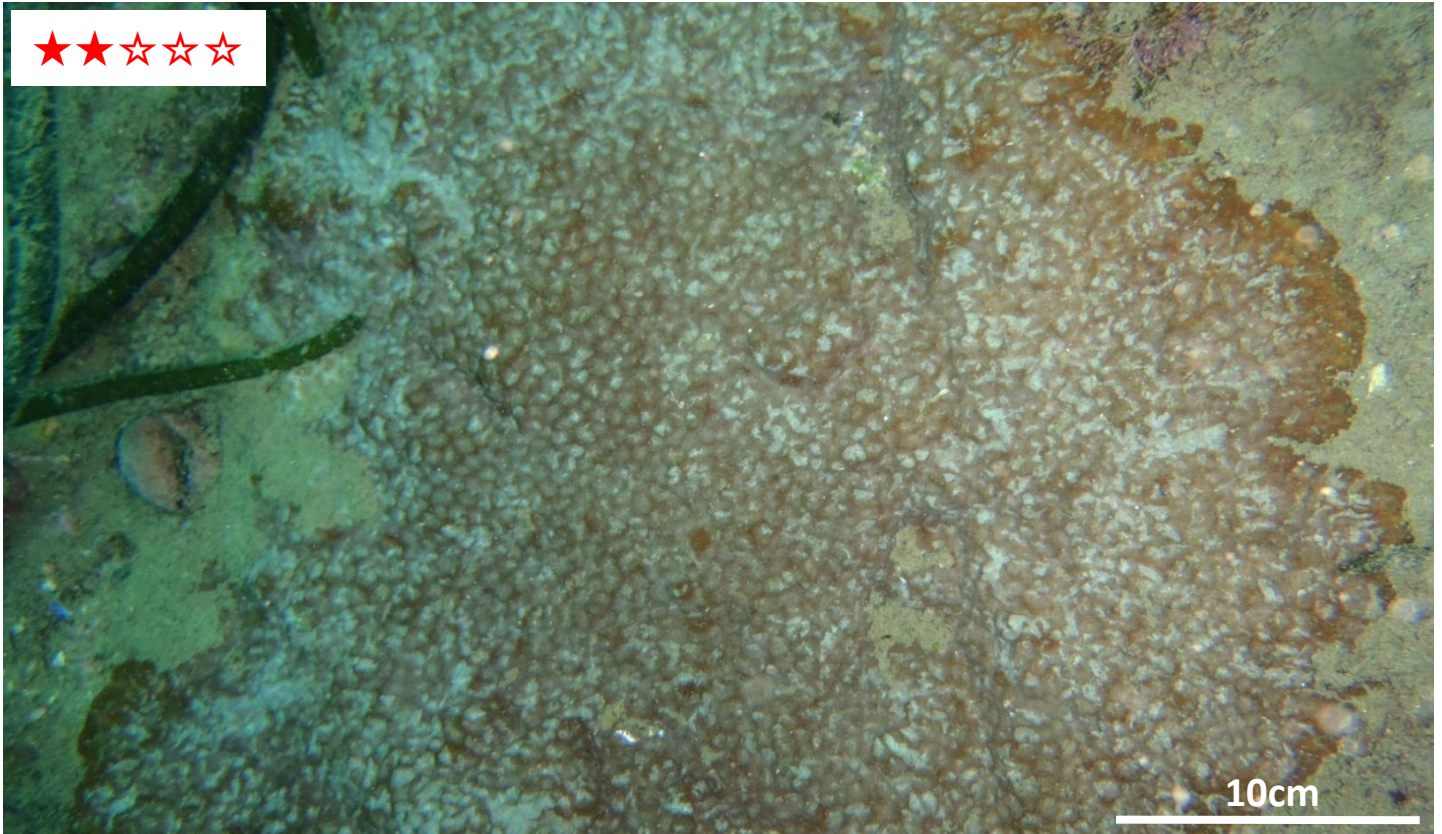


Favites micropentagona



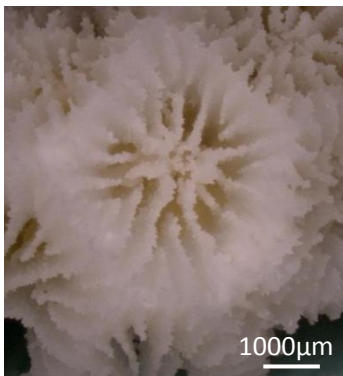
生きているときの特徴

全体的に被覆状の群体になる。表面にうねりはなく、平坦な群体になるが、部分的に小さなコブ状の盛り上がりを形成する。サンゴ個体は小さく、莖は浅い。ゴカクキクメイシに似ているが、莖の大きさがわずかに小さい。

- ・褐色と灰色が混在する。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

群体表面はうねりが少なく平坦になる。
個体は明瞭であるが、莖が浅い。



骨格の特徴

個体の形状は5～6角形前後の形になる。莖壁・隔壁は薄い、隔壁が莖壁からしっかりと発達しているため個々のサンゴ個体は明瞭に把握できる。莖は浅いため緩やかに傾斜する。軸柱は小さいが、軸柱付近で杭状葉が非常に発達しているため確認しやすい。

ゴカクキクメイシ *Favites pentagona*



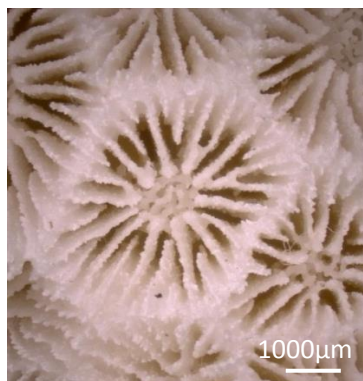
生きているときの特徴

被覆状群体になる。群体の表面に大きなうねりはなく、全体的になだらかである。サンゴ個体は個々が独立しているが、突出しているサンゴ個体もほとんど存在しない。ポリプの口盤が狭い。

- ・淡い茶色～赤褐色になる。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

組織の肉は少し厚い。莖は浅く、口盤は小さい。隔壁がキレイに配列している様子が確認できる。



骨格の特徴

個体の直径は5～8mm程度であり、形状は多角形。個体の形は全体的に揃っている。サンゴ個体は莖壁を共有しているが、個々は全て独立している。莖壁は上部では薄く、下部になるほど厚くなっていく。隔壁は次数により長さや厚さが揃っている。隔壁には小さく、細かい鋸歯が多数存在する。莖芯付近では杭状葉が存在し、軸柱を囲む。

ゴカクキクメイシのバリエーション



↑
隔壁や肋、莖の部分の色は白っぽい水色であり、莖の中は茶色、口付近は緑色になっている。ゴカクキクメイシの類似種 *Favites* aff. *pentagona* ではないかと検討されている。

←
莖が淡い褐色であり、口部分が淡い緑色であるゴカクキクメイシ。莖の突出があり、隔壁が緩やかに落ち込むため、口部分が小さい。



←
全体が緑色系であり、莖壁の部分が黄緑色、莖の内側が濃い緑色になっている。生きているときの様子はゴカクキクメイシの類似種に似ているが、隔壁が規則的に配列しており、莖の大きさも同程度である。

アツククメイシ類似種 *Favites* aff. *rotundata*



生きているときの特徴

被覆状もしくは準塊状の群体であり、サンゴ個体は大きく、幅は平均1cmである。組織は厚みがあり、骨格がほぼ組織で隠されている。群体の周縁部は厚みがある。

- ・個体上縁付近は茶色くなり、口盤付近は白色
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

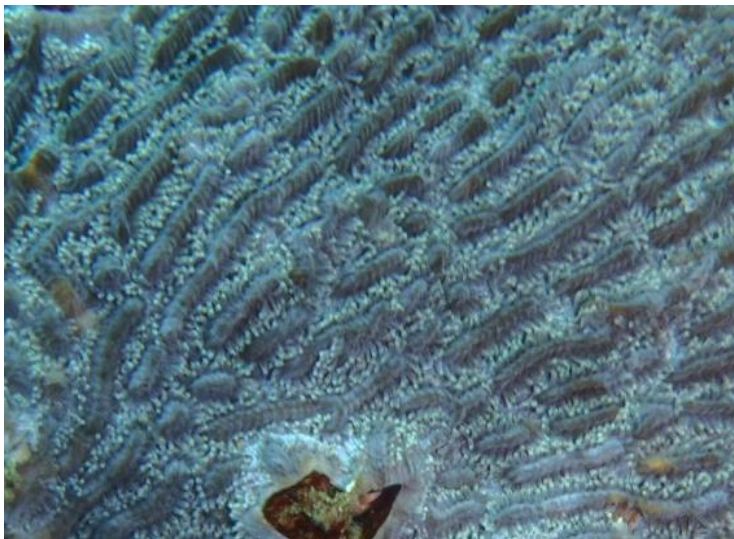
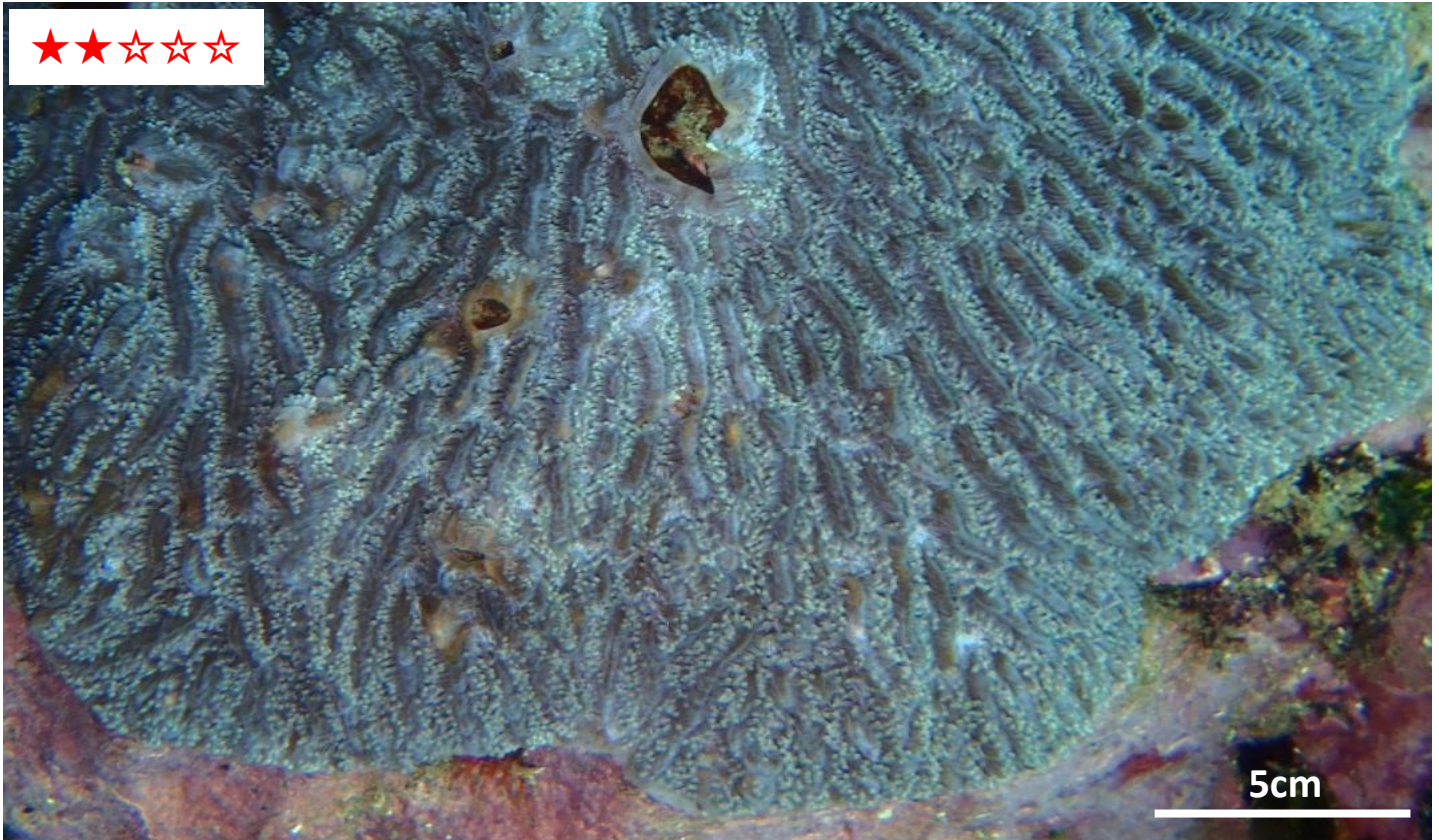
個体の大きさ・形状は不規則である。
莖は浅く、個体は広がるように開く。

骨格の特徴

個体の形状は角張ったものが多く、大きさや形状は不規則である。個体は莖壁を介して接している。隔壁の厚さはほぼ均一であり、軸柱付近まである隔壁とその半分にも満たない隔壁が交互に配置している。隔壁は大きめの鋸歯が等間隔で存在し、緩やかに傾斜する。群体周縁部の肋には尖った小さな鋸歯が細かく配置する。



トゲイボサンゴ *Hydnophora exesa*



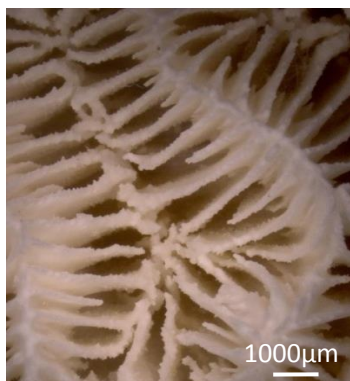
生きているときの特徴

被覆状群体である。群体全体の表面に莢壁が集まり山脈状の連なりを形成する。山脈状の莢壁の連なりの間では昼間でも触手を伸ばす。莢壁は周縁部に向けて真っ直ぐに伸びる。

- ・峰の部分は濃い青色、その他は薄い青色。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

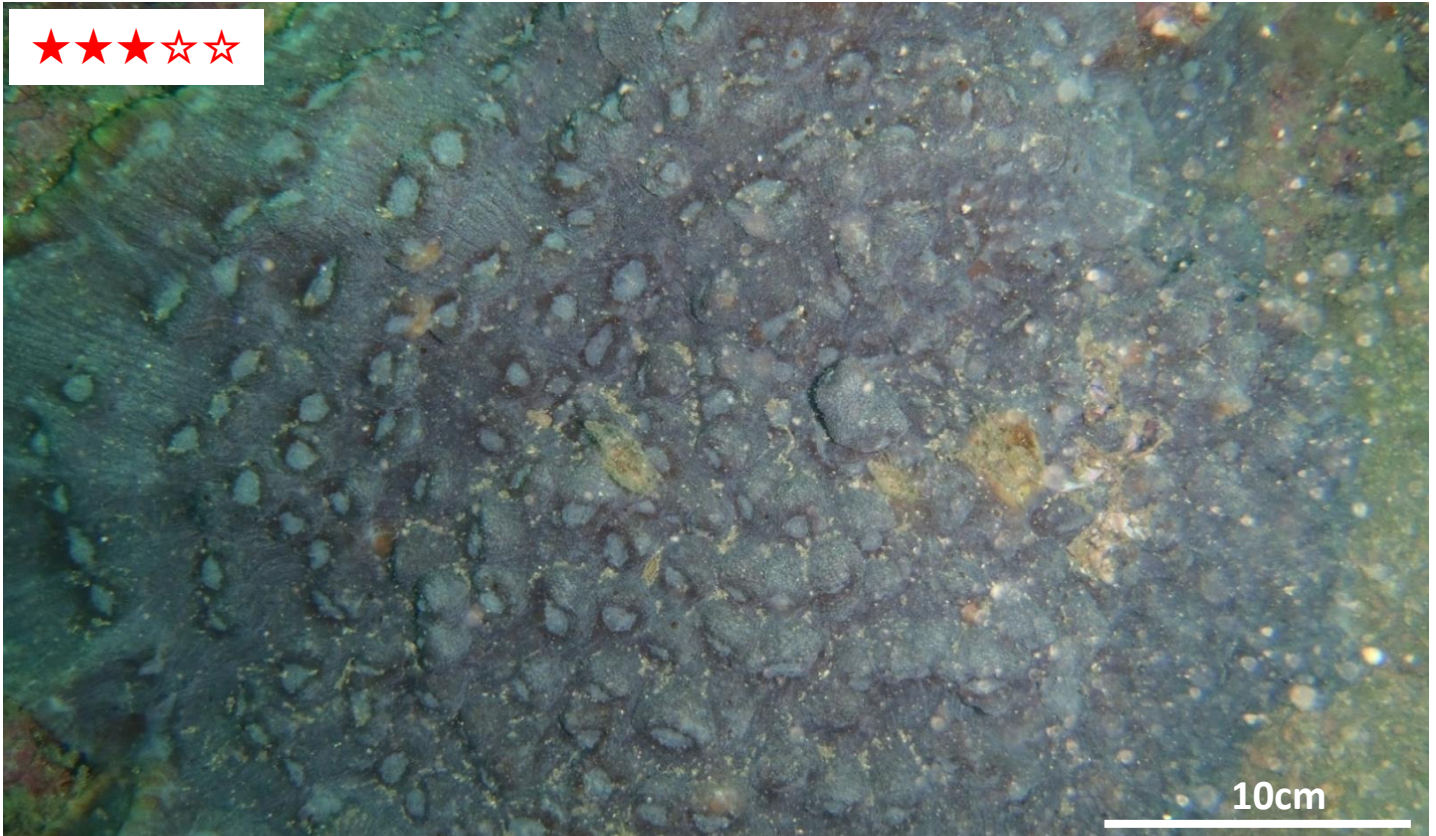
峰が群体中心から放射状に断続的に伸びる。触手は峰の間に収まるように生える。



骨格の特徴

群体表面は峰と谷が不規則に蛇行する。峰は肋と莢壁が集まったもので、峰からは長さが異なる隔壁が交互に存在する。隔壁は峰から谷底まで急に落ち込むので、谷はV字型になる。谷には軸柱が点在しており、軸柱の間にも棒状の突起が存在するので、谷の中心に沿って細い線があるように見える。

ウスカミサンゴ *Mycedium elephantotus*



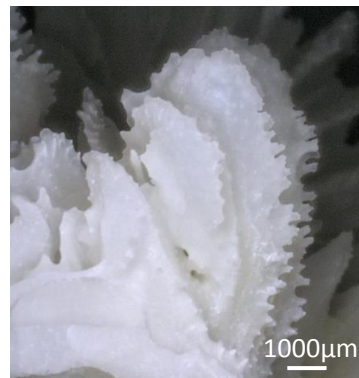
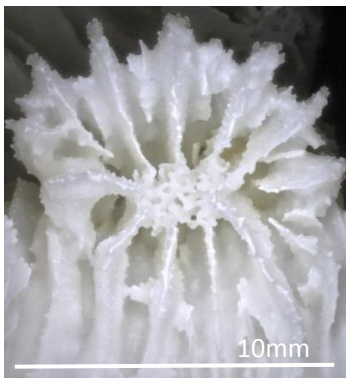
生きているときの特徴

被覆状群体である。サンゴ個体は表面に対して垂直に伸びず、斜めに傾く。周縁部は基盤に密着していない。群体は薄い。莖の窪みはほとんど見られない。

- ・口盤は灰色、その他は藍色か紺色。
- ・生息場所は水深10m~20m。

ここに注目！

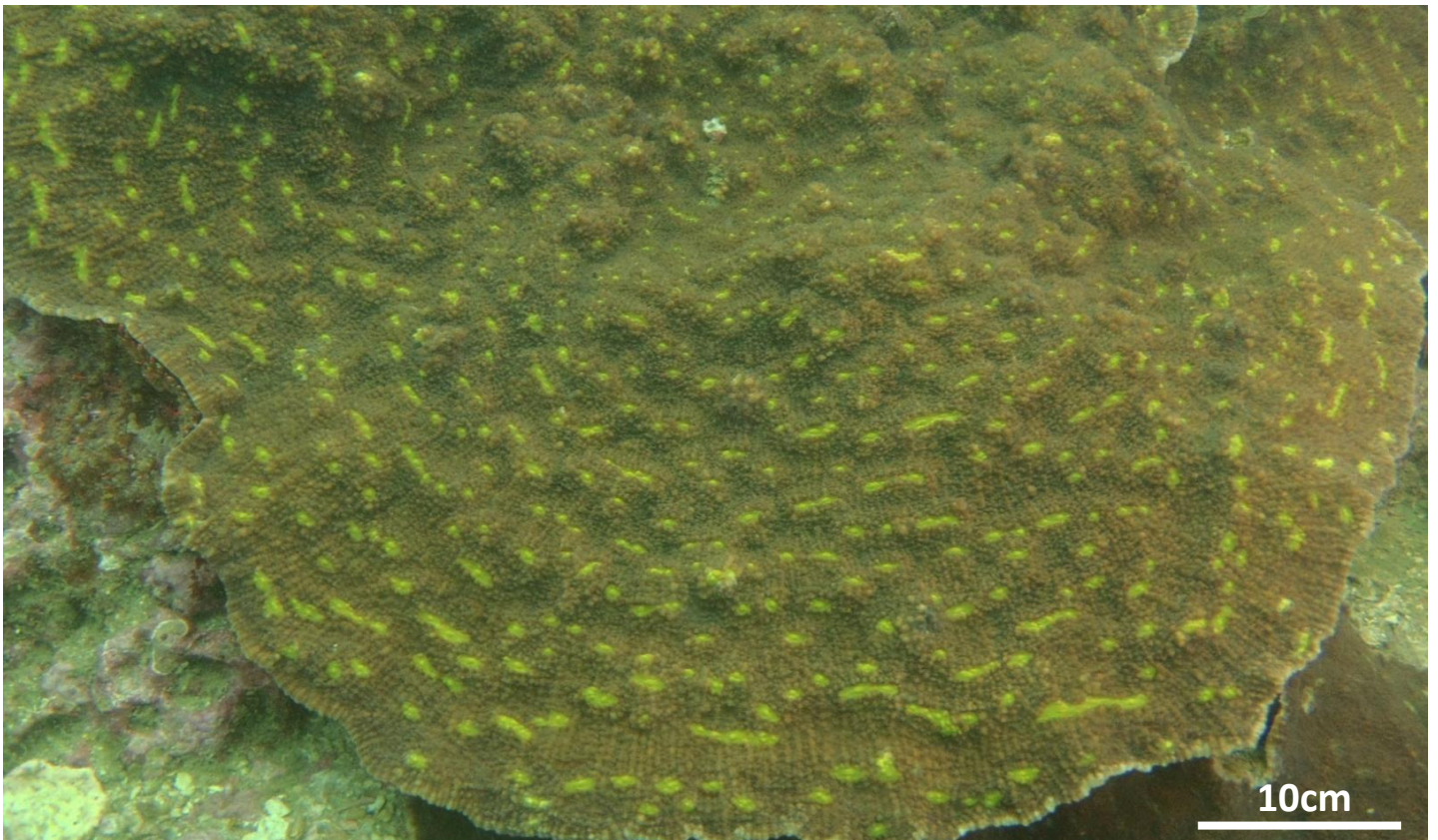
サンゴ個体は群体表面に沿うように傾き、半円状の形になる。個体は円柱状でなく、カップ状になる。



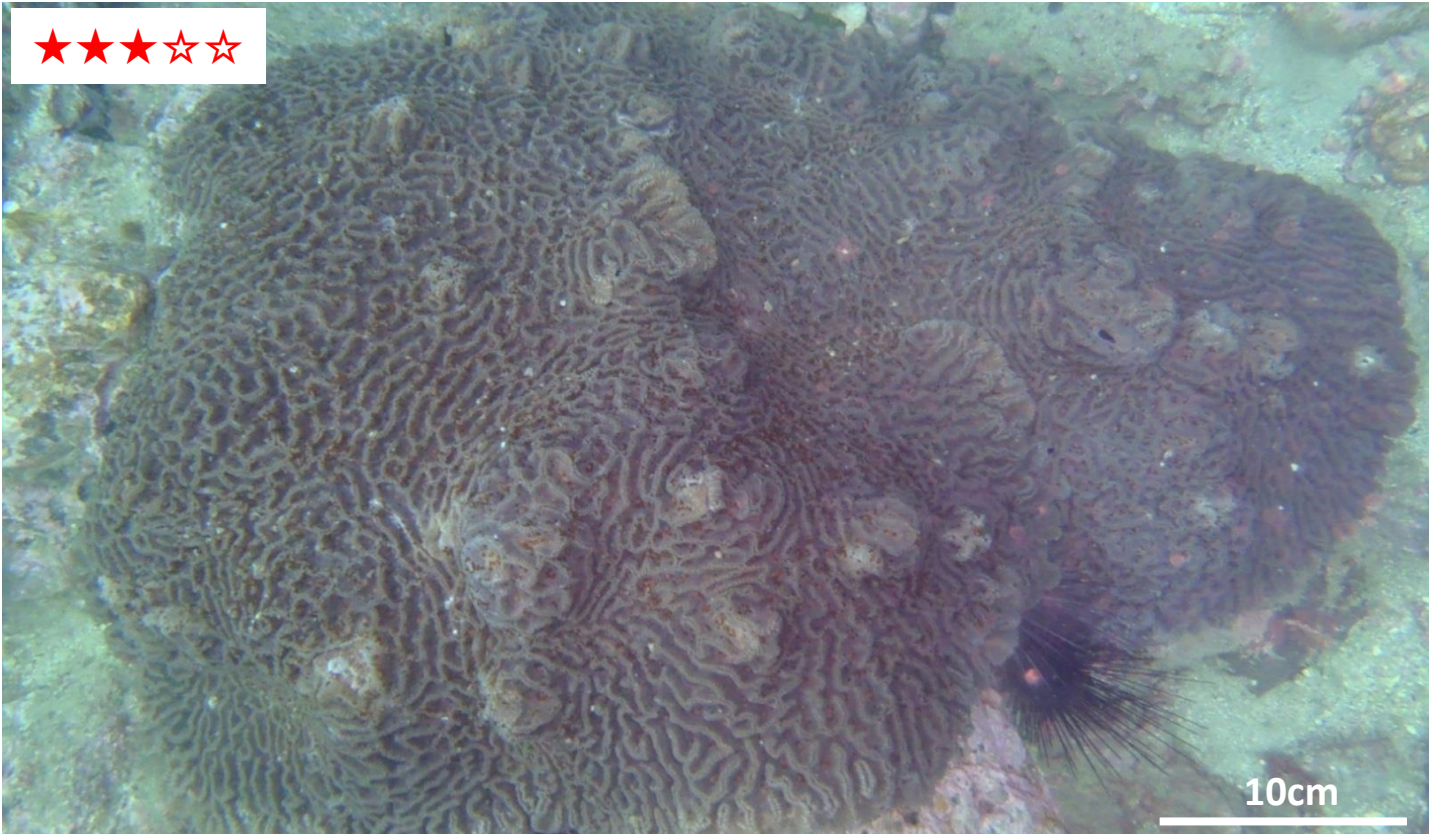
骨格の特徴

個体の形状は円形~楕円形になり、個体によっては半円形にもなる。側面から見ると、個体はお椀状になるものが多い。莖壁・隔壁・肋は薄い。隔壁・肋はよく発達している。隔壁は規則的に配置している。隔壁・肋には非常に小さいトゲ状の鋸歯が多数存在する。

ウスカミサンゴのバリエーション



オオナガレサンゴ *Oulophyllia crispera*



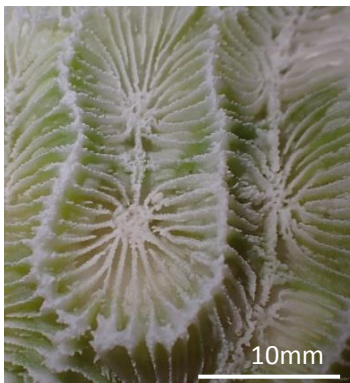
生きているときの特徴

被覆状もしくは準塊状群体である。サンゴ個体のほとんどが連っており、個体の幅は2cm前後である。組織は薄く、ポリプの口が視認できる。莢壁の列の間には細い溝が形成される。

- ・淡い褐色。口は橙色になる。
- ・生息場所は水深5m～10m。

ここに注目！

*Platygyra*に比べて個体の幅が大きく、幅は2cm前後。群体表面はV字の谷と尖った峰で覆われる。



骨格の特徴

サンゴ個体は隣接した個体どうしで融合している。稀に単体で存在する個体もある。隔壁・莢壁は薄い。隔壁は莢の上部から軸柱に向けて真っ直ぐに傾斜するので、V字の谷を形成する。隔壁には小さく細かい鋸歯が多数存在する。軸柱はスポンジ状で、谷の中心に直線的に存在するが、個体の中心では円形上にまとまる。

ウネカメノコキクメイシ *Paragoniastrea australensis*



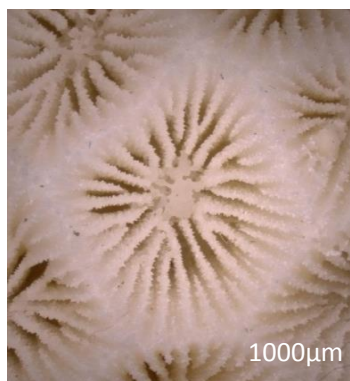
生きているときの特徴

被覆状および準塊状の群体である。サンゴ個体は不規則に3つ以上の個体どうしが融合する。莢壁は高く、莢壁の上部から下部に向けて急に落ち込む。組織は薄い

- ・莢は褐色で、口盤は淡い緑色。
- ・生息場所は水深3m～10m。

ここに注目！

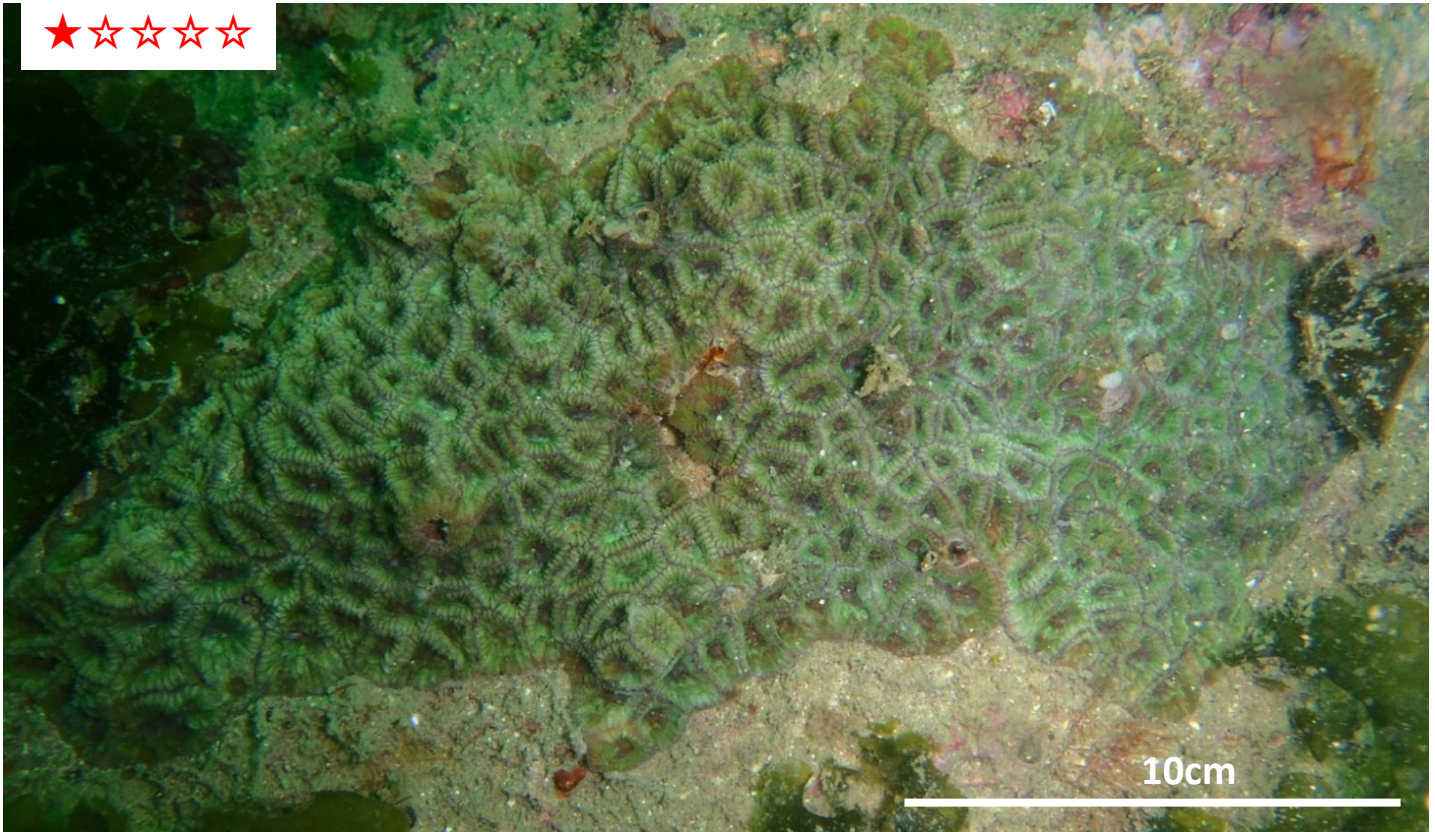
1個体のもから5個以上が融合したものが不規則に存在する。*Platygyra*とは違い、隔壁が莢壁の上縁に突出しない。溝の幅は1cm前後。



骨格の特徴

莢の深さは群体全体を通して均一である。莢壁は少し厚く、隔壁は薄い。隔壁は莢壁上部から軸柱付近にかけて緩やかに傾斜する。隔壁には非常に小さな鋸歯が細かく配置している。軸柱は小さく、軸柱付近には杭状葉を形成する。

ミダレカメノコキクメイシ *Paragoniastrea deformis*



生きているときの特徴

被覆状および準塊状群体である。サンゴ個体は隔壁によって区切られ、個体間の区別が明確。

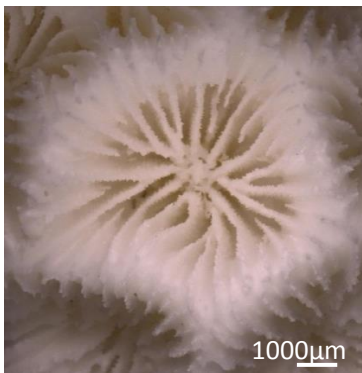
- ・莖壁部分は薄い褐色～褐色、口盤は緑色。
- ・生息場所は水深3m～15m。

ここに注目！

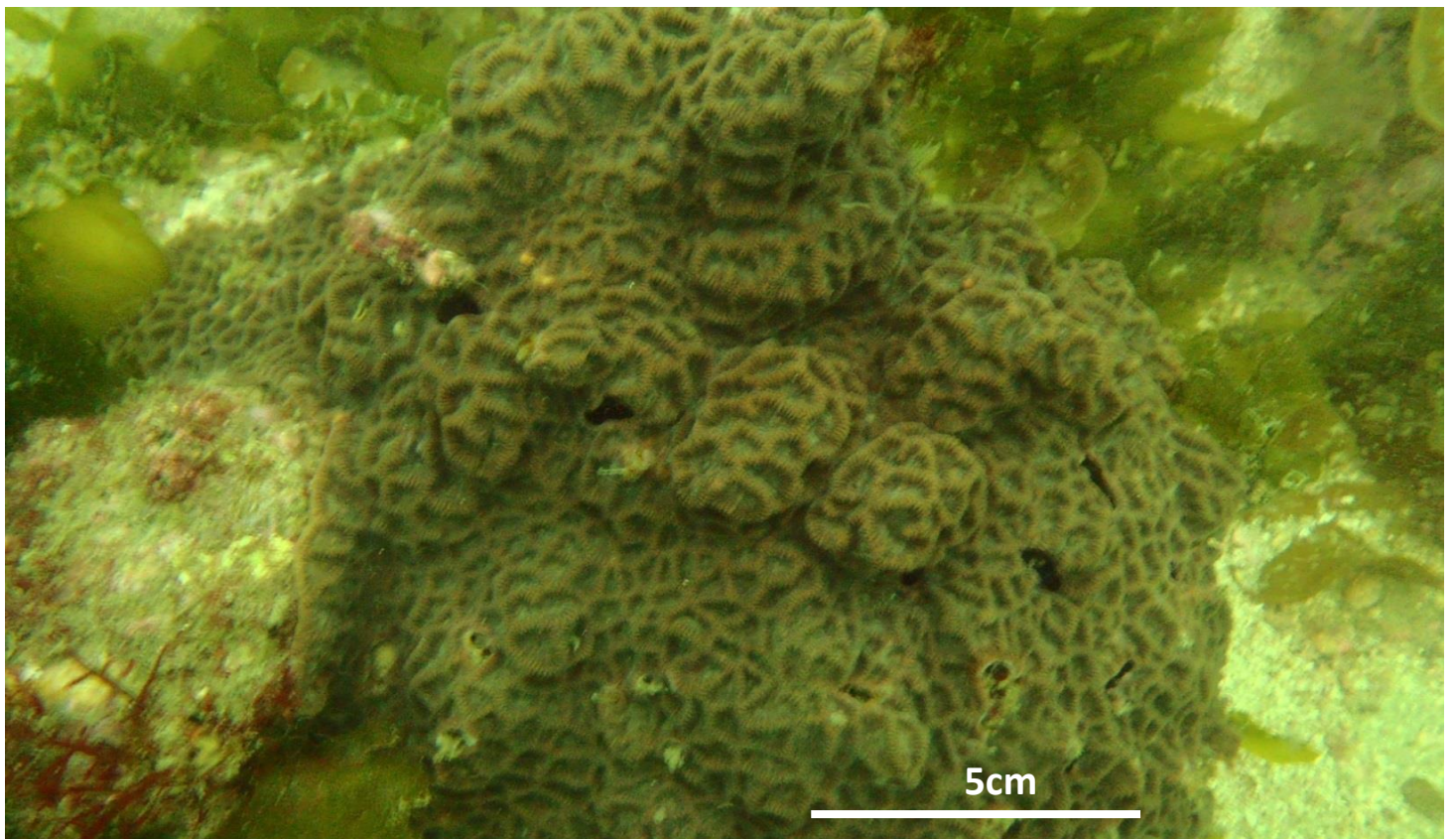
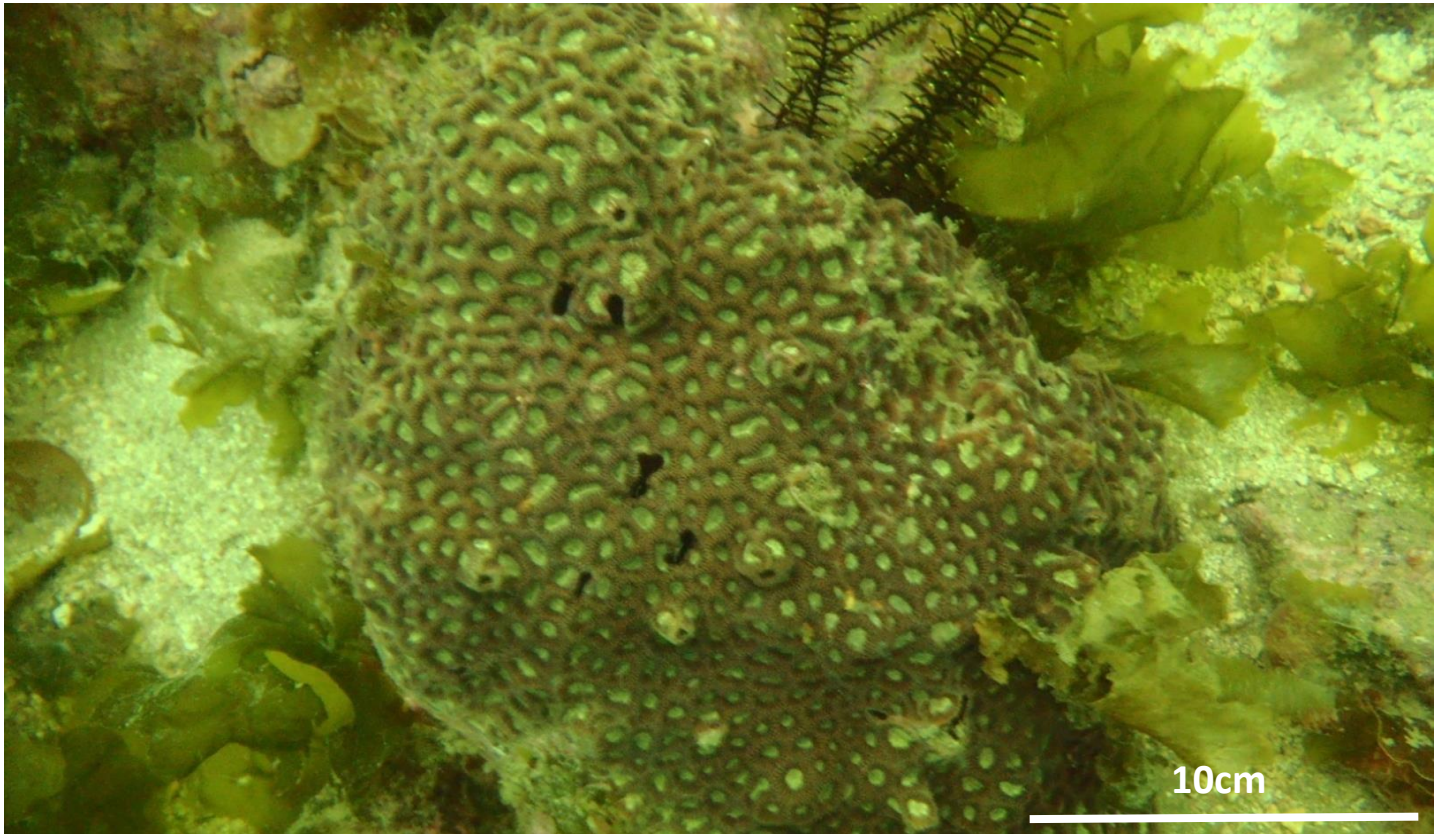
サンゴ個体は不規則な形をしていて、互いに明確に区別できる。ただし、次ページの形態バリエーションになると、個体間の境界は曖昧になる。個体が長く連続しないのが特徴。

骨格の特徴

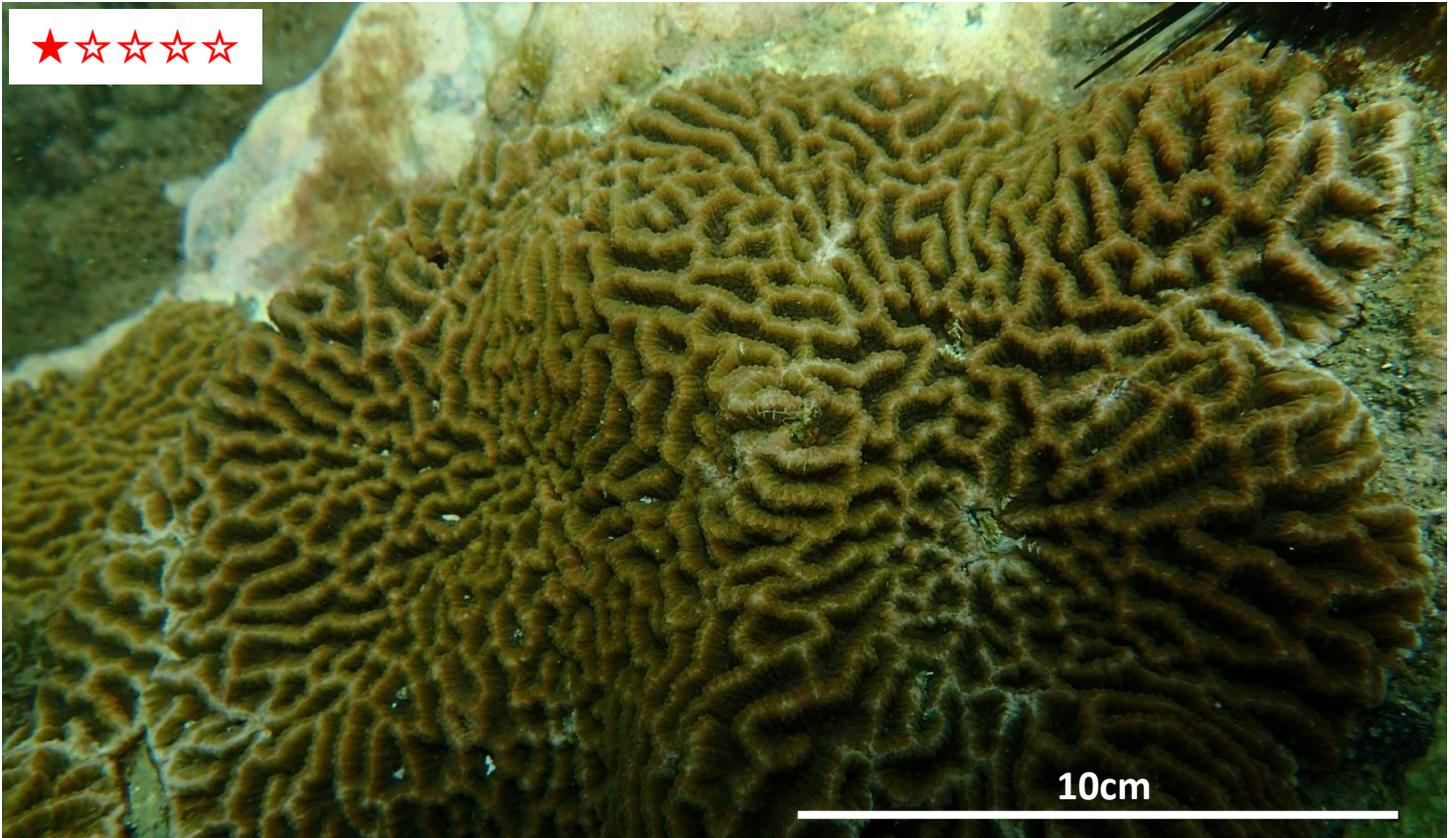
個体の形状は不規則で円形～多角形になる。莖壁は厚く、隔壁は薄い。隔壁は次数により長さが異なるが明瞭ではない。*Goniastrea*に比べると、莖は深く、隔壁は莖の上部から下部にかけて急傾斜している。また、杭状葉は発達するが弱い。隔壁には非常に小さく尖った鋸歯が多数存在する。典型的な本種では、個体間に溝ができる。



その他の *P. deformis* の形態



ヒラノウサンゴ *Platygyra daedalea*



生きているときの特徴

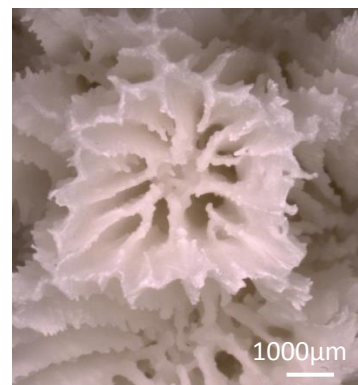
被覆状および準塊状になる。サンゴ個体は隣接した複数の個体が連続している。周縁部は岩との接着面でわずかに離れている。表面はうねりがあり、不規則な盛り上がりをつくる。

- ・全体的に褐色、莢の上部で白色になる部分がある。
- ・生息場所は水深3m～15m。

ここに注目！

組織の肉は薄く、莢は深い。

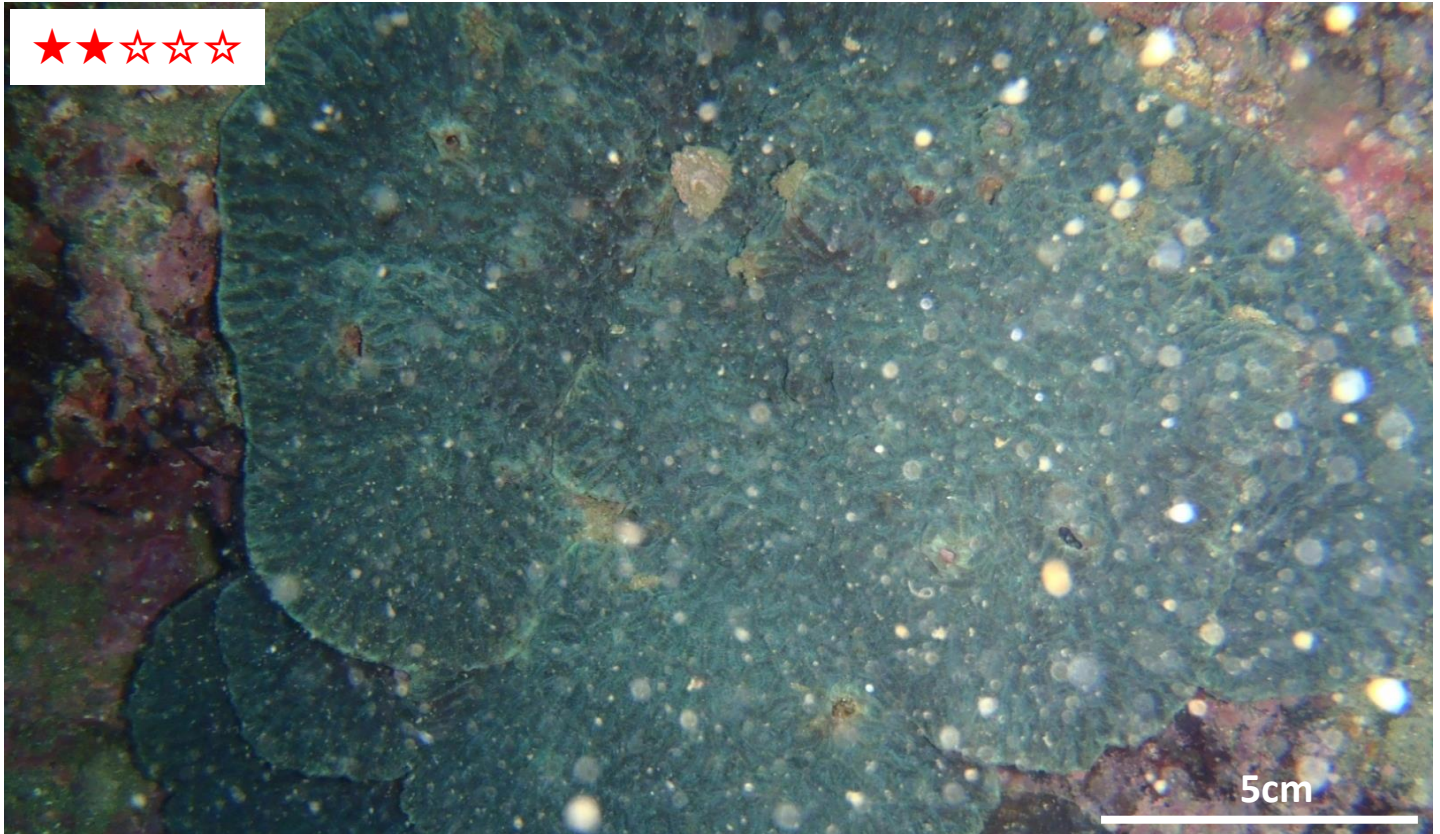
*Paragoniastrea*に比べ、サンゴ個体は角張る。



骨格の特徴

サンゴ個体の形状は不規則で、全体的に角張っている。莢壁や隔壁は薄い。隔壁は上部から下部に向けて急斜して落ち込む。隔壁には小さく、細かい鋸歯がたくさん存在する。*Goniastrea*や *Paragoniastrea*とは異なり、杭状葉(Pariform lobes)は発達しない。単体の場合、軸柱は円形のスポンジ状になる。

ヒメノウサンゴ *Platygyra pini*



生きているときの特徴

被覆状の群体である。群体の周縁部では葉状になり、群体どうしが重なり合う場合がある。組織の肉は厚く、莖壁の上部から口盤にかけて緩やかな斜面になる。

- ・全体的に濃い緑色～薄い緑色になる。
- ・生息場所は水深3m～15m。

ここに注目！

峰の幅は広く、緩やかな傾斜をもつ。*Oulophyllia crispal*に似ているが、峰の頂端どうしの幅は5～8mm前後であり、*O. crispal*に比べて狭い。

骨格の特徴

群体はV字の谷と少し緩やかな傾斜をもつ峰が不規則に蛇行している。莖壁は厚く、隔壁は均一の大きさであり、整然と等間隔に配置している。隔壁は莖壁よりも上方まで発達し、隔壁には多数の尖った小さな鋸歯が傾斜に対して垂直に発達している。杭状葉は発達しない。

